

言語聴覚学科 シラバスの変更一覧

学年	ページ	開講科目
1年	31	臨床歯科医学・口腔外科学
2年	116	言語発達障害評価学
3年	185	言語聴覚学特別講義Ⅰ
3年	189	言語聴覚学特別講義Ⅱ

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-HDT-12					
	●	●		●							
科目名	臨床歯科医学・口腔外科学				単位 認定者	川村 仁 櫻庭 ゆかり		評価 の方法	試験(筆記・ レポート)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	通年	単位数	1 単位		授業内 課題等	30 %	
						授業時間数	30 時間		受講態度	30 %	
					授業形態	講義	授業回数		15 回		
授業の概要	顎口腔機能障害を惹起する多彩な口腔病変について、病理学・口腔外科学の観点から体系的に明らかにするために、皮膚と粘膜の構造と機能、顔面・口腔の発生について学ぶ。また口腔組織の構造と機能、歯の発育異常・損傷、智歯、う蝕、歯周病、口腔粘膜病変、口腔腫瘍・嚢胞、口腔奇形、歯列不正・不正咬合、さらに顎の問題として、顎関節疾患、顎変形症の診断と治療について学び、全人的健康のための口腔顎顔面の役割を理解する。講義終盤では顎口腔機能の障害と構音、咀嚼、嚥下障害の関係について学修する。										
到達目標	歯科医学の基礎的知識を習得し、全人的健康における口腔顎顔面の役割を理解し、口腔顎顔面に生ずる病的状態から生ずる構音、咀嚼、摂食障害の機能訓練を行うための基盤を作る。										
学修者への期待等	授業、講義に教科書が利用されています。教科書は基本ですが、その教科書も様々な存在し、教科書のすべてが絶対ではなく、前進の糸口でしかありません。私が学び、皆さんにお伝えすることは、口腔顎顔面領域の問題と認識についての大きな進化の流れをお示しすることであり、皆さんのこれからの前進にお手伝いできればと考えます。教科書に見えない部分も含め、スライド（プリントを準備します）を通し、口腔顎顔面領域の、直面するであろう、想像を超えるであろう様々な問題について、一緒に考えていきます。										
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	全人的健康のための口腔顎顔面の役割：口腔の健康を冒す病気と闘う口腔顎顔面外科学					事前学修：教科書の序章を読む 事後学修：友人と講義内容を議論		30	30	川村 仁	
2	全人的健康のための口腔顎顔面の役割：基礎歯科医学＆臨床歯科医学					事前学修：教科書の序章を読む 事後学修：友人と講義内容を議論		30	30	川村 仁	
3	口腔粘膜疾患・口腔腫瘍＆嚢胞の臨床					事前学修：教科書の口腔外科学;軟組織の異常・口腔膜疾患・口腔顎領域の嚢胞・口腔顎顔面の腫瘍および類似疾患を読む 事後学修：友人と講義内容を議論		30	30	川村 仁	
4	虫歯・歯周組織炎・智歯を科学する					事前学修：教科書の口腔外科学:口腔顎顔面の外傷・口腔顎の炎症を読む 事後学修：友人と講義内容を議論		30	30	川村 仁	
5	歯列不正。顎関節疾患を科学する					事前学修：教科書の口腔外科学:顎関節の疾患を読む 事後学修：友人と講義内容を議論		30	30	川村 仁	
6	口腔再建とインプラントの臨床					事前学修：教科書嚢の口腔外科学:口腔ケアを読む 事後学修：友人と講義内容を議論		30	30	川村 仁	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
7	口腔顎顔面の奇形&変形の臨床	事前学修：教科書の 口腔外科学：口腔顎 顔面の異常・口腔顎 顔面領域の先天異常 症候群を読む 事後学修：友人と講 義内容を議論	30	30	川村 仁
8	皮膚と粘膜、顔面・口腔の発生	事前学修：教科書の 該当ページを読んで おくこと 事後学修：特に指定 しない	30	0	櫻庭 ゆかり
9	口腔組織	事前学修：教科書の 該当ページを読んで おくこと 事後学修：特に指定 しない	30	0	櫻庭 ゆかり
10	歯の発育異常	事前学修：教科書の 該当ページを読んで おくこと 事後学修：特に指定 しない	30	0	櫻庭 ゆかり
11	う蝕、歯周組織	事前学修：教科書の 該当ページを読んで おくこと 事後学修：特に指定 しない	30	0	櫻庭 ゆかり
12	口腔粘膜病変	事前学修：教科書の 該当ページを読んで おくこと 事後学修：特に指定 しない	30	0	櫻庭 ゆかり
13	口腔嚢胞	事前学修：教科書の 該当ページを読んで おくこと 事後学修：特に指定 しない	30	0	櫻庭 ゆかり
14	口腔腫瘍	事前学修：教科書の 該当ページを読んで おくこと 事後学修：特に指定 しない	30	0	櫻庭 ゆかり
15	口腔奇形	事前学修：教科書の 該当ページを読んで おくこと 事後学修：特に指定 しない	30	0	櫻庭 ゆかり
アクティブ・ ラーニング	☒ 該当なし ☐ 該当あり：キーワード（ ）				
教科書	「言語聴覚士のための基礎知識 臨床歯科医学 口腔外科学（第2版）」 夏目 長門編 医学書院				
参考文献	なし				
備考	課題やレポートがある場合は、次の授業内でフィードバックする。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
担当教員の一人は、大学教員として約50年口腔顎顔面外科学の講義および実学教育を担ってきた

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-LDS-02					
	●	●		●							
科目名	言語発達障害評価学				単位認定者	須賀川 芳夫		評価の方法	試験(筆記)	70	%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30	%
						授業時間数	30 時間				
					授業形態	講義	授業回数		15 回		
授業の概要	言語発達を促すために、評価は大変重要な位置を占める。適切な評価に必要な観察上の視点を身に付け、情報収集、必要な検査を選択する能力を養い、検査の実際を経て結果を考察し評価のまとめに至る一連の流れを学修する。										
到達目標	言語障害を言語形式 - 指示内容関係、基礎的プロセス、コミュニケーション態度の3つの視点から捉え、言語障害の病態を理解できるようになる。										
学修者への期待等	S-S法を中心に取り組んでいきます。積極的に演習に参加し、言語発達の捉え方、考え方をしっかりと身につけていってください。										
回	授業計画					準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	言語発達について 言語発達の基礎（S－S法を中心に）					事前学修：テキスト内の関連するところを読んでおくこと。 事後学修：授業で配布した資料で、内容を再確認すること。			30	30	
2	検査法 1 S-S法の実施練習（実技と採点練習）：相互演習					事前学修：マニュアルの指定した個所を読んでおくこと。 事後学修：授業で配布した資料で、内容を再確認すること。			30	30	
3	検査法 2 S-S法の実施練習（実技と採点練習）：相互演習					事前学修：マニュアルの指定した個所を読んでおくこと。 事後学修：授業で配布した資料で、内容を再確認すること。			30	30	
4	検査法 3 S-S法の実施練習（実技と採点練習）：相互演習					事前学修：マニュアルの指定した個所を読んでおくこと。 事後学修：授業で配布した資料で、内容を再確認すること。			30	30	
5	検査法 4 S-S法の実施練習（実技と採点練習）：相互演習					事前学修：マニュアルの指定した個所を読んでおくこと。 事後学修：授業で配布した資料で、内容を再確認すること。			30	30	
6	検査法 5 S-S法の実施練習（実技と採点練習）：相互演習					事前学修：マニュアルの指定した個所を読んでおくこと。 事後学修：授業で配布した資料で、内容を再確認すること。			30	30	
7	検査法 6 S-S法の実施練習（実技と採点練習）：相互演習					事前学修：マニュアルの指定した個所を読んでおくこと。 事後学修：授業で配布した資料で、内容を再確認すること。			30	30	
8	検査法 7 S-S法の実施練習（実技と採点練習）：相互演習					事前学修：マニュアルの指定した個所を読んでおくこと。 事後学修：授業で配布した資料で、内容を再確認すること。			30	30	
9	検査法 8 S-S法の実施練習（実技と採点練習）：相互演習					事前学修：マニュアルの指定した個所を読んでおくこと。 事後学修：授業で配布した資料で、内容を再確認すること。			30	30	
10	検査法 9 S-S法の実施練習（実技と採点練習）：相互演習					事前学修：マニュアルの指定した個所を読んでおくこと。 事後学修：授業で配布した資料で、内容を再確認すること。			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
11	検査法10 S-S法の実施練習（実技と採点練習） ：相互演習	事前学修：マニュアルの指定した個所を読んでおくこと。 事後学修：授業で配布した資料で、内容を再確認すること。	30	30
12	検査法11 S-S法の実施練習（実技と採点練習） ：相互演習	事前学修：マニュアルの指定した個所を読んでおくこと。 事後学修：授業で配布した資料で、内容を再確認すること。	30	30
13	検査法12 S-S法の実施練習（実技と採点練習） ：相互演習	事前学修：マニュアルの指定した個所を読んでおくこと。 事後学修：授業で配布した資料で、内容を再確認すること。	30	30
14	検査法13 S-S法の実施練習（実技と採点練習） ：相互演習	事前学修：マニュアルの指定した個所を読んでおくこと。 事後学修：授業で配布した資料で、内容を再確認すること。	30	30
15	検査法14 S-S法の実施練習（実技と採点練習） ：相互演習	事前学修：マニュアルの指定した個所を読んでおくこと。 事後学修：授業で配布した資料で、内容を再確認すること。	30	30
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（相互演習、実技）			
教科書	資料を配布する			
参考文献	国リハ式〈S-S法〉言語発達遅滞検査マニュアル 改訂第4版、言語発達遅滞の言語治療（診断と治療社）			
備考	課題について、次回講義時にフィードバックを行う			

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

担当教員は、言語聴覚士として20年以上の臨床経験を有している。前職は公立学校教員（特別支援学校、小学校）であり、主に特別支援教育を担当してきた。
 [資格等] 言語聴覚士、小学校教諭免許、特別支援学校教諭免許、特別支援教育士 等

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング ST-3-SOC-14				
	●	●	●	●	●					
科目名	言語聴覚学特別講義Ⅰ				単位 認定者	渡邊 弘人 中川 大介 江畑 綾		評価の 方法	授業内課題	90 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	自由	3 年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業時間数	60 時間			
						授業回数	30 回			
授業の概要	言語聴覚士の仕事は、多くの基礎的分野に関する知識の上に成り立つ。本講義では、専門支持科目で学んできた内容について総合的に復習し、言語聴覚士の幅広い臨床に対応できる人材を目指す。 専門支持科目で学修した臨床歯科医学、呼吸系の構造・機能・病態、音声学、言語学について、総合的に復習し、言語聴覚士の臨床に対応できる人材を目指す。									
到達目標	専門支持科目で学んできた内容について総合的に復習し、専門展開科目とのつながりについて理解を深める									
学修者への期待等	専門支持科目を中心として言語聴覚療法を総合的に見直していく。3 年間のまとめとして重要な内容となるため、積極的な受講を望む									
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	医学総論					事前学修：STテキストP2～7を読んで、わからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。		60	60	中川大介
2	解剖学・生理学 運動器系・循環器系					事前学修：STテキストP8～14を読んでわからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。		60	60	中川大介
3	解剖学・生理学 呼吸器系・消化器系 内分泌系					事前学修：STテキストP14～27を読んでわからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。		60	60	中川大介
4	解剖学・生理学 神経系・感覚系					事前学修：STテキストP29～36を読んでわからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。		60	60	中川大介
5	病理学 炎症、遺伝、免疫					事前学修：STテキストP37～43を読んでわからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。		60	60	中川大介
6	内科学 循環器疾患 など					事前学修：STテキストP45～55を読み、復習すること 事後学修：関連過去問題を解くこと		60	60	江畑綾

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
7	内科学 呼吸器疾患 など	事前学修：STテキストP45～55を読み、復習すること 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑綾
8	小児科学 小児神経疾患、神経筋疾患	事前学修：STテキストP56～69を読み、復習すること 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑綾
9	精神医学	事前学修：STテキストP70～79を読み、復習すること 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑綾
10	リハビリテーション医学	事前学修：STテキストP80～85を読んでわからない言葉は調べること. 事後学修：配布する確認問題を実施すること.	60	60	中川大介
11	耳鼻咽喉科学 耳科学 適宜グループワーク・ペアワークを行う。	事前学修：配布資料をよみ問題を解くこと 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること	30	60	渡邊弘人
12	耳鼻咽喉科学 口腔・咽頭科学	事前学修：STテキストP93～102を読み、復習すること 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑綾
13	耳鼻咽喉科学 喉頭科学、気道食道科学	事前学修：STテキストP93～102を読み、復習すること 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑綾
14	臨床神経学 神経系の解剖・生理	事前学修：STテキストP103～108を読んでわからない言葉は調べること. 事後学修：配布する確認問題を実施すること.	60	60	中川大介
15	臨床神経学 神経学的検査 神経症候学	事前学修：STテキストP103～110を読んでわからない言葉は調べること. 事後学修：配布する確認問題を実施すること.	60	60	中川大介
16	臨床神経学 脳血管障害など	事前学修：STテキストP110～123を読んでわからない言葉は調べること. 事後学修：配布する確認問題を実施すること.	60	60	中川大介
17	形成外科学 口唇・口蓋裂	事前学修：STテキストP124～133を読んでわからない言葉は調べること. 事後学修：配布する確認問題を実施すること.	60	60	中川大介

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
18	臨床歯科医学、口腔外科学	事前学修：STテキストP134～143を読み、復習すること 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑綾
19	認知・学習心理学(古典的条件付け、オペラント条件付け)(視覚、記憶の効果) 適宜グループワークを行う。	事前学修：配布資料をよみ問題を解くこと 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること	30	60	渡邊弘人
20	臨床心理学	事前学修：STテキストP155～159を読み、復習すること 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑綾
21	生涯発達心理学（新生児、乳幼児期）	事前学修：STテキストP160～167を読んでわからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。	60	60	中川大介
22	生涯発達心理学（児童期、青年期、老年期）	事前学修：STテキストP160～167を読んでわからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。	60	60	中川大介
23	心理測定法	事前学修：STテキストP168～172を読んでわからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。	60	60	中川大介
24	言語学；言語構造，意味論など	事前学修：STテキストP174～189を読み、復習すること 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑綾
25	音声学	事前学修：STテキストP190～202を読み、復習すること 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑綾
26	音響学	事前学修：配布資料をよみ問題を解くこと 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること	30	60	渡邊弘人
27	聴覚心理学 適宜グループワークを行う。	事前学修：配布資料をよみ問題を解くこと 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること	30	60	渡邊弘人
28	言語発達学	事前学修：STテキストP219～224を読んでわからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。	60	60	中川大介

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
29	言語発達学(学童期期)のまとめ	事前学修：STテキストP219～224を読んでわからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。	60	60	中川大介
30	聴覚機能全般（聴覚解剖と生理、音の処理） 適宜グループワークを行う。	事前学修：配布資料をよみ問題を解くこと 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること	30	60	渡邊弘人
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク、ペアワーク）				
教科書	『言語聴覚士国家試験 必須ポイント2026 ST専門科目』医歯薬出版 『言語聴覚士国家試験 必須ポイント2026 ST基礎科目』医歯薬出版 『2027年版言語聴覚士国家試験過去問題3年間の解答と解説』大揚社 2026年7月頃発売予定 『言語聴覚士テキスト 第4版』医歯薬出版 編著大森孝一				
参考文献	なし				
備考	授業内課題は、採点後に返却しフィードバックを行う。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
担当教員は、臨床経験15年以上の言語聴覚士である。臨床経験を活かし、学生が患者・利用者の抱える言語聴覚障害を深く理解するための基礎的な知識を再確認し、臨床現場に繋げられるような講義とする。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-3-SOC-15				
		●	●	●	●					
科目名	言語聴覚学特別講義Ⅱ				単位認定者	中川 大介 江畑 綾 渡邊 弘人 平山 和美 野口 美雪		評価の方法	授業内課題	90 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	自由	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	10 %
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	講義	授業回数	30 回			
授業の概要	言語聴覚士が担当する言語・高次脳機能障害（失語症、高次脳機能障害、言語発達障害、発声発語の障害、聴覚障害）及び摂食嚥下障害について専門展開科目を基に総合的に復習するとともに、障害の評価や訓練についてとらえ直し、見落としがちなポイントや、理解すべき事柄を整理する。より良いリハビリテーションを提供し、対象児者の全人的復権に寄与するために知識面での補完を目指す。									
到達目標	今まで学修した内容を振り返り、各科目の関係性の理解を深める。									
学修者への期待等	専門展開科目を中心として言語聴覚療法を総合的に見直していく。3年間のまとめとして重要な内容となるため、積極的な受講を望む。									
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	言語聴覚障害学総論					事前学修：STテキストP260～264を学習しておくこと 事後学修：講義時に配布する問題実施すること		30	60	中川 大介
2	失語症 症状とメカニズム					事前学修：STテキストP268～276を学習しておくこと 事後学修：講義時に配布する問題実施すること		60	60	中川 大介
3	失語症 評価と訓練					事前学修：STテキストP276～281を学習しておくこと 事後学修：講義時に配布する問題実施すること		60	60	中川 大介
4	高次脳機能障害 症状とメカニズム					事前学修：STテキストP282～296を学習しておくこと 事後学修：講義時に配布する問題実施すること		60	60	中川 大介
5	高次脳機能障害 評価と訓練					事前学修：STテキストP282～296を学習しておくこと 事後学修：講義時に配布する問題実施すること		60	60	中川 大介
6	脳画像の見方（大脳の脳葉、基底核、視床、脳幹の各部位の同定、脳画像の種類）					事前学修：事前に資料を配布するので、読んでおくこと 事後学修：特に指定しない		30	0	平山 和美
7	脳画像の見方（重要な脳回や構造の同定、病変の映り方）					事前学修：事前に資料を配布するので、読んでおくこと 事後学修：特に指定しない		30	0	平山 和美
8	言語発達障害 病態、検査法（言語機能検査）					事前学修：STテキストP291～306を読み、わからないことは調べておくこと 事後学修：関連過去問題を解くこと		60	60	江畑 綾
9	言語発達障害 検査法（発達検査、知能検査）					事前学修：STテキストP291～306を読み、わからないことは調べておくこと 事後学修：関連過去問題を解くこと		60	60	江畑 綾

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
10	言語発達障害 訓練法(言語発達遅滞訓練)	事前学修：STテキスト P291～306を読み、わからないことは調べておくこと 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑 綾
11	言語発達障害 訓練法(指導・支援)	事前学修：STテキスト P291～306を読み、わからないことは調べておくこと 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑 綾
12	成人聴覚検査 適宜グループワークを行う。	事前学修：配布資料を読んで問題を解くこと 事後学修：配布資料と提示資料を確認し復習すること	30	60	渡邊 弘人
13	小児聴覚検査 適宜グループワークを行う。	事前学修：配布資料を読んで問題を解くこと 事後学修：配布資料と提示資料を確認し復習すること	30	60	渡邊 弘人
14	補聴器人工内耳 適宜グループワークを行う。	事前学修：配布資料を読んで問題を解くこと 事後学修：配布資料と提示資料を確認し復習すること	30	60	渡邊 弘人
15	視覚聴覚二重障害	事前学修：STテキスト P354～362を学習しておくこと 事後学修：講義時に配布する問題実施すること	30	60	中川 大介
16	機能性・器質性構音障害	事前学修：STテキスト P394～P402を学習しておくこと 事後学修：講義時に配布する問題実施すること	30	60	中川 大介
17	吃音	事前学修：STテキスト P404～P412を学習しておくこと 事後学修：講義時に配布する問題実施すること	60	60	中川 大介
18	発達障害（全般）	事前学修：STテキスト P298～P311を学習しておくこと 事後学修：講義時に配布する問題実施すること	30	60	中川 大介
19	学習障害	事前学修：STテキスト P298～P311を学習しておくこと 事後学修：講義時に配布する問題実施すること	30	60	中川 大介
20	ADHD	事前学修：STテキスト P298～P311を学習しておくこと 事後学修：講義時に配布する問題実施すること	30	60	中川 大介
21	ASD	事前学修：STテキスト P298～P311を学習しておくこと 事後学修：講義時に配布する問題実施すること	30	60	中川 大介
22	音声障害	事前学修：STテキスト P372～383を学習しておくこと 事後学修：講義時に配布する問題実施すること	30	60	中川 大介
23	運動障害性構音障害 タイプ分類と特徴	事前学修：STテキスト P386～391を読み、わからないことは調べておくこと 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑 綾

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
24	運動障害性構音障害 タイプ分類と訓練法	事前学修：STテキスト P386～391を読み、わからないことは調べておくこと 事後学修：関連過去問題を解くこと 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑 綾
25	摂食嚥下障害 メカニズム	事前学修：STテキスト P404～418を読み、わからないことは調べておくこと 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑 綾
26	摂食嚥下障害 評価・訓練	事前学修：STテキスト P404～418を読み、わからないことは調べておくこと 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑 綾
27	社会福祉関係法規① 社会福祉法	事前学修：関連資料を確認しておくこと 事後学修：国家試験問題を復習しておくこと	30	30	野口 美雪
28	社会福祉関係法規② 生活保護法、児童福祉法	事前学修：関連資料を確認しておくこと 事後学修：国家試験問題を復習しておくこと	30	30	野口 美雪
29	社会福祉関係法規③ 老人福祉法 介護保険法	事前学修：関連資料を確認しておくこと 事後学修：国家試験問題を復習しておくこと	30	30	野口 美雪
30	社会福祉関係法規④ 障害者総合支援法、精神保健福祉法	事前学修：関連資料を確認しておくこと 事後学修：国家試験問題を復習しておくこと	30	30	野口 美雪
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク、ペアワーク）				
教科書	『言語聴覚士国家試験 必須ポイント2026 ST専門科目』医歯薬出版 『言語聴覚士国家試験 必須ポイント2026 ST基礎科目』医歯薬出版 『2027年版言語聴覚士国家試験過去問題 3年間の解答と解説』大揚社 2026年7月頃発売予定 『言語聴覚士テキスト 第4版』 医歯薬出版 編著大森孝一				
参考文献	なし				
備考	授業内課題は、採点後に返却し、フィードバックを行う。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員の一人は、脳神経内科の医師としての30年以上の臨床実務経験を生かして、医学的な内容を理解させる。